# 「　『思いやりの心』日本一を目指して」

令和7年4月18日

学校だより「4月号」にも書きましたが豊崎小学校の重点目標に「自他の生命を大切にし、相手の立場を考え、思いやりの心を持って行動する子」があります。私は、この重点目標を素晴らしいものと思うと同時に、子ども達に分かるように具体化し、取り組むことの必要性を強く感じます。

今年は、昭和100年であり、戦後80年の年でもあります。第二次世界大戦では、世界で5,500万人、日本でも310万人。私たちが住むこの沖縄でも20万人以上の方が亡くなったとされています。（統計資料によって違いがあります）日本や沖縄だけに限らず、今年は世界中の人々にとって大切な年としなければならないと思うのですが、世界情勢を顧みると悲しい気持ちになります。他者や他国の立場をあまり考慮することなく、自分中心、自国中心の言動が幅を利かす状況があるからです。

始業式で、戦後80年に触れ、世界で戦争や紛争が起こっている現状を踏まえ、どうすれば戦争が起こらないようにできるのか？私は、子ども達に正直に「分からない」と話しました。ですが、本校の重点目標にある「自他の生命を大切にし、相手の立場を考え」、豊崎小学校から「思いやりの心」を広げていくことは可能だということ、そして、世界中が「思いやりの心」に満たされれば平和が実現できるかもしれない。と、話しました。「思いやり」の意味を調べると「自分以外の人のために気遣いをすること、相手の立場になって考え、思いを共有すること、同情する気持ち」とありました。相手に自分の優しい思いを寄り添わせる行い、行為が動詞としての「思いやる」という言葉なのでしょう。

さて、子ども達にとって「思いやりの心」というだけでは、低中学年の子ども達には伝わらないかもしれません。ですから、子どもに分かる言葉で伝える必要があります。例えば、名前を呼ぶ時の「さんづけ」。あなたのことを大切にしていますよ、との思いを込めて「〇〇さん」と呼びましょう。と語ることはできます。また、相手を勇気づけたり、励ましの言葉としてある「ドンマイ」「ナイス」「すごい」「いいね」などの「ふわふわ言葉」を先生たちが子ども達に教え伝え、そして使うことによって子ども達に広げることもできると思います。相手を蔑み、傷つける言葉としての「チクチク言葉」ではなく、豊崎っ子の子ども達からたくさんの「ふわふわ言葉」が発せられると、これほど嬉しいことはありません。思いやりの花が一杯に咲きほこる豊崎小学校にしたいものです。

ところで、「思いやりの心」は、周りの人を思いやる優しい気持ちだけではありません。自分の持ち物や学級・学校の用具等を大切に扱うのも、「物」に対する「思いやりの心」です。本校では、「もくもく清掃」に取り組んでいますが、お掃除をして綺麗にするのは、教室や学校に対する思いやり。みんなが掃除を頑張って綺麗な教室や学校になれば、そこで過ごす他の子ども達は気持ちがよくなることでしょう。「そう考えれば、掃除をすることは思いやりである」（この言葉、以前勤めていた百名小学校の児童の言葉です）もし、仮に、「作業や掃除を頑張っていましたよ」と、保護者が担任からそういわれたら嬉しい気持ちになるはずです。これはもう親孝行です。

入学式の準備や片付けを5・6年生が頑張っていました。自分に与えられた役割や責任を果たすことは、周りの人に余分な負担をかけない思いやりです。同時に責任ある行動をとることによって自分をさらなる高みへ成長させる自分への思いやりでもあります。勉強やスポーツなども、自分にできる精一杯の努力を尽くすことによって自分を成長させる自分への思いやりです。「思いやりの心」は、様々な様態としてあるはずです。

この1年、「思いやりの心」日本一を目指して、児童会や6年生の委員会活動と関連させて取り組んでいきたいと思います。ご家庭でも「思いやりの心」について子どもと一緒に考えてもらえると嬉しいです。